

一般質問

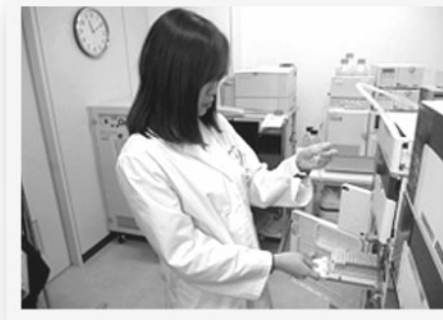
6月定例会



伊藤 好晴 議員

Qがんの早期発見のために

二人に一人ががん患者といわれ、早期発見は重要な課題である。国の調査では、がん患者の就労実態は約半数が退職・失業と深刻な状況だ。早期発見が重要であるのに、本町の前年度の健康診断受診率は45・3%と低い実態だ。5ccの採血で簡易にがんのリスクを診断する「アミノインデックス」という解析サービスを導入している自治体や医療機関もあると聞くが、本町で導入する考えはないか。



A関心をもって対応したい

町長 山崎 英樹

「アミノインデックス」は、簡易にがんのリスクを予測、評価する検査。本町では平成22年度島根大学医学部の研究協力依頼があり、疾病の関連性を調査された経緯がある。現段階では確立した検診方法ではないようだ。

また、鳥取県南部町で導入事例がある。がんのリスクを予測したのち、患者は精密検査が必要となり負担が増える上、医療機関も機器整備やシステム確立等が必要で、今の段階では導入する状況にない。今後も関心をもってみるとともに対応していきたい。

Q子ども・子育て支援新制度は

来年度から「子ども・子育て支援新制度」が導入される。この中で認定こども園は幼保連携・幼稚園・保育所・地方裁量型等に分けられ、中身は保護者・関係者ともよくわからないのが実態だ。

また、株式会社参入など、保育の市場化に道を開くもので、保育の責任後退の流れで見逃ごせない。

全ての子どもへの豊かな教育、保育を受ける権利の保障は国と自治体が責任をもって行うべきである。これら保育所基準の改善など、国に要望することを求めるが、町長の考えを問う。



さつき保育所

A実態に即した保育事業を進めたい

町長 山崎 英樹

ご指摘のとおり詳細は不明な部分もあるが、制度は来年度から導入が予定されている。国も規制緩和により、企業進出等も進めている。本町では現在子ども・子育て支援会議において議論いただいており、飯南町の実態に即した保育事業を進めたいと考えている。



桜ヶ台保育所

一般質問

6月定例会



門 眞一郎 議員

Q豆腐を

町の特産品に

豆腐は、非常に安価な一品であるが、原料である北米産大豆には遺伝子組み換え大豆が含まれているものがある。遺伝子組み換え大豆は、グリホサートなどの非選択型除草剤をかけると、他の草はみんな枯れてしまうが、大豆はびんびんしているという恐ろしい植物である。消費者はこのことに気づき始め、安全性を意識するようになってきている。

町内産の豆腐は、飯南町産大豆と、北海道を主産地とする大豆が原料で、生産・加工・販売まで顔の見える商品である。その上、味がよい。

豆腐は京都の名物の一つだが、京都ではなく飯南町へ行くという仕掛けがつくれるのではないか。戦略的加工作品ということがあれば、豆腐はこれに当たると思う。6次産業の優等生、豆腐に着目して、販路の拡大を試みてはどうか。



リピーターの多い町内産の豆腐

A豆腐づくりを支援していきたい

町長 山崎 英樹

町内産の豆腐は、消費者に高く評価され、リピーターも多いと聞く。消費者が店頭で選ぶ豆腐づくりを支援していきたい。

「おいしいものを食べるに飯南町へ」という仕掛けづくり、都市部への情報発信、PRをしつかりやっていく。

Qエコロジ―農家の拡大に努力を

本町のエコロジー米比率は、25年度40・3%だ。目標は28年度80%で、道は遠い。

認定農家の拡大は、人海戦術で一軒一軒農家にお問い合わせするという方法が一番確実ではないか。

福井県のJA「越前たけふ」では、職員が各戸を訪問し、申請書を作成し、まとめて申請することである。認定を受けていない農家は、個人経営、または二種兼業農家で、この方法しかないと思う。

この度、一般的なエコ米と食味のすぐれたエコ米を分別できるカントリーエレベーターが導入されるが、すぐれた道具でも、使いこなす技術がなければただの箱である。

農家の協力や向上心を刺激する政策、消費者の認知度を高めるための戦略が重要であり、生命地域を自認する本町の米がいつまでたっても慣行栽培であってはならないと考えるが。

A認定農家拡大に向けて、取り組み

町長 山崎 英樹

一軒一軒訪問するということが、どういう手法で進めていくか、対策を詰めるながら認定農家拡大に向け、しっかり取り組んでいく。

また、進まない理由の一つに価格の問題がある。カントリーエレベーターが整備されると、品質に見合った精算をするということなので、エコ米への取り組みも加速できるのではないかと。

施設を整備しても、そこへ入れるものがしっかりとしたものでなくてはならないので、車の両輪の考えで進めていく。

